



お薬ができるまで

MEDICINEという単語には、医学という意味のほかに、お薬という意味もあります。つまり、医学とお薬は密接な関係にあり、医学においてお薬は大変重要な役割を担っています。最近では、お薬の効果を高めると同時に、病変部以外へのお薬の影響を最小限にとどめ、副作用の少ないお薬の開発が進められています。

ひとつのお薬が誕生するには、10年以上もの年月がかかります。その間に、さまざまな研究が行われます。そして臨床研究の最終段階で、効き目や安全性を確認するためにボランティアや患者さんの協力を得て臨床試験（治験）が行われます。ここで集めたデータは、国（厚生労働省）に販売許可を申請するときに使用されます。



植物や鉱物、微生物、カビや細菌などから、お薬になりそうな物質を探します。



それが体にどのような影響を与えるのか、動物や培養細胞などを使って調べます。



多くのボランティアや患者さんに協力してもらい、お薬の候補の効き目や安全性が確認されます。



国の審査に合格するとお薬として製造され、病院で患者さんに投与されます。



お薬は販売された後も、効き目や安全性に問題がないかどうか定期的にチェックされます。